

(注) 本資料は、ワーキングチームにおける論点及び検証結果を分かりやすく表現することを目的とし、できる限り平易な記載としています。

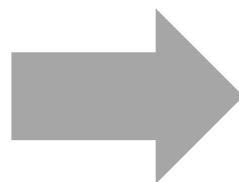
# 地震対策 – 緊急時対策所の耐震設計（建屋内の設備への影響と要員の安全性） –



ワーキングの詳細  
はこちらから

## 論点No.8

緊急時対策所は、免振構造ではなく耐震構造にしたようだが、その場合、地震の揺れが軽減されずに建物内に伝わるため、建物内の設備が壊れたり、要員が転倒したりするおそれがあるが大丈夫なのか。



第22回ワーキング  
(2022.11.1)、  
第30回ワーキング  
(2025.2.12) で議論

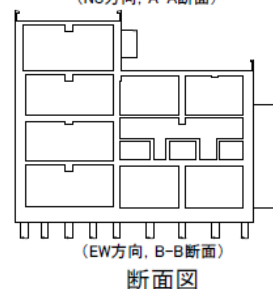
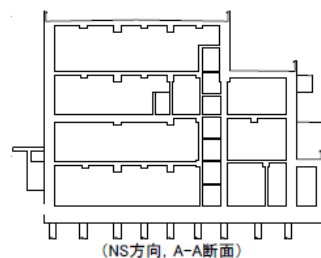
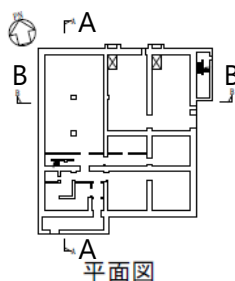
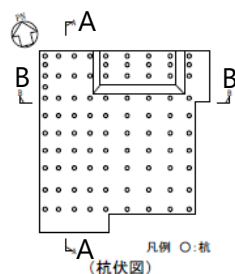
## ワーキングチーム検証結果

緊急時対策所内に備える机やOA機器、資機材などは固縛・固定し、地震で壊れないように対策すること、要員は固定した机等に掴まり体勢を維持することで転倒による負傷を防ぐことを確認。

## ワーキングチーム検証結果（抜粋）

### ○緊急時対策所建屋の概要

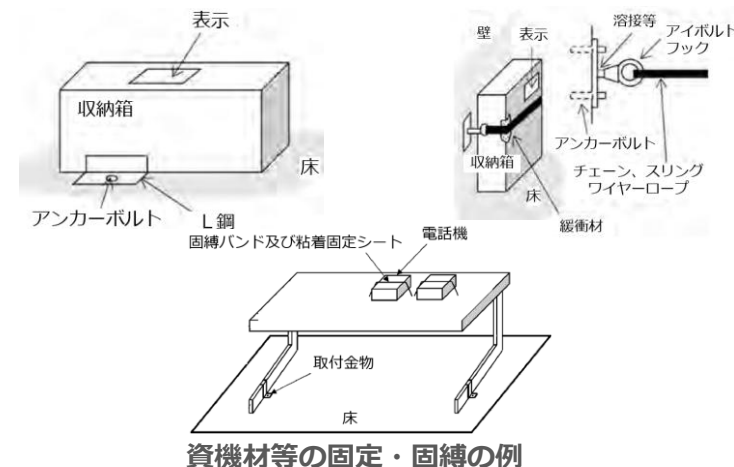
- 重大事故等が発生した際の災害対策要員の活動の拠点として、緊急時対策所を設置する。
- 緊急時対策所は、先行する原子力発電所で実績のある耐震構造とし、基準地震動 $S_s$ による地震力に対し、遮へい性や気密性などの機能を損なわない設計とする
- 緊急時対策所には、事故対処に必要な情報を表示するデータ表示装置や通信連絡設備を備えた災害対策本部室や、要員の宿泊・休憩室を設置
- 内部には、7日間分の食糧や飲料水、資機材等を配備



緊急時対策所の構造

### ○施設内の設備・機器及び人員に係る耐震上の対策

- 緊急時対策所に配備する机、OA機器や資機材等は、地震に対して必要な機能を維持するため、適切な固縛や、転倒防止措置を施す。
- 緊急時対策所に滞在する要員への危険を排除するため、配備する机等は固定し、要員は机等の固定したものに掴まり体勢を維持することで、転倒による負傷を防止する。



資機材等の固定・固縛の例